

科目区分	専門教育科目	科目名	手話講座	科目コード	20L770	担当者	下瀬 和枝				
対象学生	生活創造学科 ビジネス・医療秘書コース 1年生	学期区分	前期	単位数	1	担当形態	単独				
		授業区分	演習								
科目		施行規則に定める科目区分又は事項等				卒業要件	必修				
						免許・資格要件					
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
聴覚障害者のコミュニケーション方法を学び、そのコミュニケーション方法の1つである手話を学ぶ事により、将来の仕事に役立つようにする						1. 「 良心 」 誠実な人柄と 人間力	2. 「 創造 」 高度な知性と 創造力	3. 「 実践 」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 表現力・創造力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介ができる										
2.	コミュニケーションをする楽しさを知り、手話検定をめざすことができる										
3.	聴覚障害者の日常生活における課題とその方法を理解する事が出来る										
4.	聴覚障害者への簡単な窓口対応ができるようになる					○		◎	○	○	◎
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（70%） レポート提出（10%） 受講態度（20%）					
講師の手の動き、表情をよく見て模倣する。各講座で習得した手話で、対話・グループでの会話、また、最終的にろうあ者とコミュニケーション体験をする。テキスト、参考資料を中心に学習するが、必要に応じてDVDを使用し学習する。											
課題等への対応						授業外学修時間					
外部講義の後は必ずレポートを提出。						復習：15～30分 予習：20～40分					
回数	授業計画					学習課題（予習・復習）					
第1回	『手話を学ぶ心構え』 実技 講座1「自己紹介をしてみよう」自分と家族					手話、聴覚障害者について自分なりにイメージ、挨拶の復習					
第2回	『聴覚障害とコミュニケーションの基礎知識』 実技 講座2「挨拶をしてみよう」名前					聴覚障害の種類、コミュニケーション手段、指文字の予習					
第3回	『聴覚障害者について』 実技 講座3「手話が分からなかったとき」会話					復習：自分の名前、家族の表現 予習：手話以外の方法					
第4回	『手話の成り立ち』 実技 講座4「数字や時間の表現を覚えよう」					復習：会話の表現 予習：数字の表現					
第5回	『手話サークル』 実技 講座5「趣味のことを話そう」					復習：数字、指文字表現 予習：趣味をジェスチャーで表現					
第6回	実技 講座6「行きたい場所の表現を覚えよう」講座1～6の復習					復習：数字、指文字、問い 予習：会話内容を考える					
第7回	特別講義 「ろうあ者の生活」 長崎県ろうあ協会（レポート提出）					予習：聴覚障害者の生活をイメージ					
第8回	『手話通訳』 実技 講座7「病気のことがで困ったとき」					復習：講義を受けてレポート作成 予習：病気等イメージ					
第9回	『日本聴力障害新聞』 実技 講座8「お天気と乗り物の手話を覚えよう」スポーツや乗り物					予習：スポーツ等をジェスチャーで伝える工夫					
第10回	『手話言語条例』 実技 講座9「買い物とお金の表現を覚えよう」色					復習：スポーツ等の表現 予習：手話言語条例を調べてくる					
第11回	『聞こえなくて困ること』 実技 講座10「ろうあ者の生活を知ろう」経験談					復習：お金、色の表現 予習：ろうあ者の困りごとをイメージ					
第12回	『防災について』 実技 講座11「災害に関する手話を学ぼう」天気					予習：災害時の聴覚障害者の現状を調べてくる					
第13回	『ろう運動』 実技 講座12「今まで学んだ手話を活かして話してみよう」					復習：天気、指文字、数字などの表現					
第14回	窓口対応の実践 自己紹介 復習					予習：窓口で発生する会話例を出す					
第15回	手話でのコミュニケーション体験（ろうあ者と話そう）					復習、予習：習った手話の確認と、スムーズな会話の練習					
試験	定期試験を実施する										
教科書	『聴さんと学ぼう！』一般財団法人全日本ろうあ連盟出版					受講生へのメッセージ コミュニケーションの基本はお互いの顔や表情を見て話すこと。特に手話は「視る言葉」です。しっかり相手を見て会話をしましょう。コミュニケーション、通じることの楽しさを体感してください。					
参考書等	授業中に適宜資料を配布する										